

◆今期間のポイント

<主要じょう乱の概要>

- 27日は、低気圧が本州南岸付近を通過して、日本の東へ進む。高気圧が東シナ海に移動する。
- 28日から29日にかけて、低気圧が日本海から北日本を通過して千島近海へ進む。
- 29日から30日にかけて、前線を伴った低気圧が東シナ海から本州南岸付近を通過する。
- 30日から5月1日にかけて、高気圧が東シナ海から日本の南に移動する。

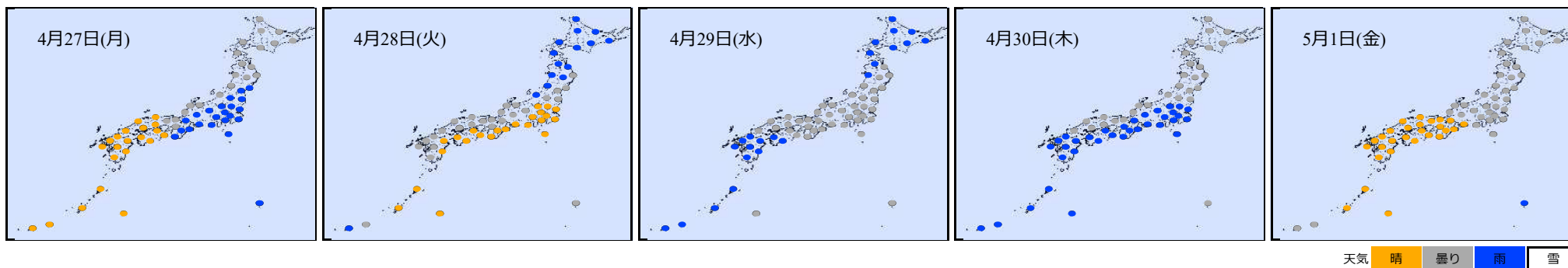
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- なし。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

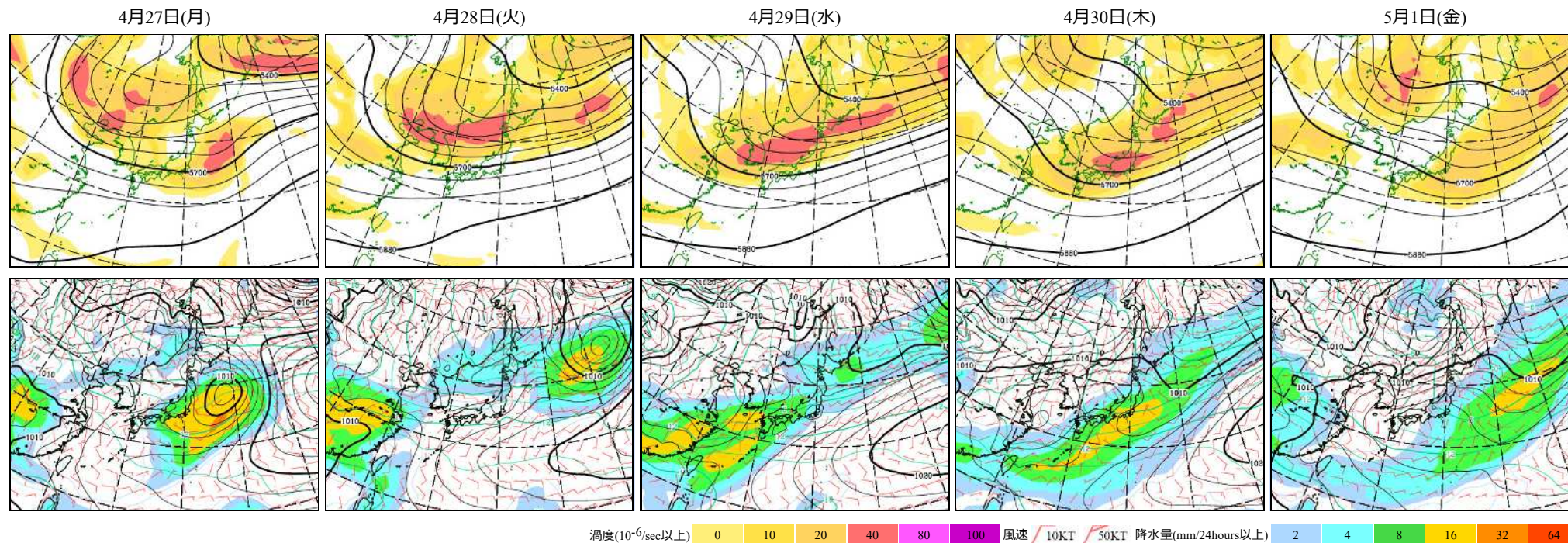
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

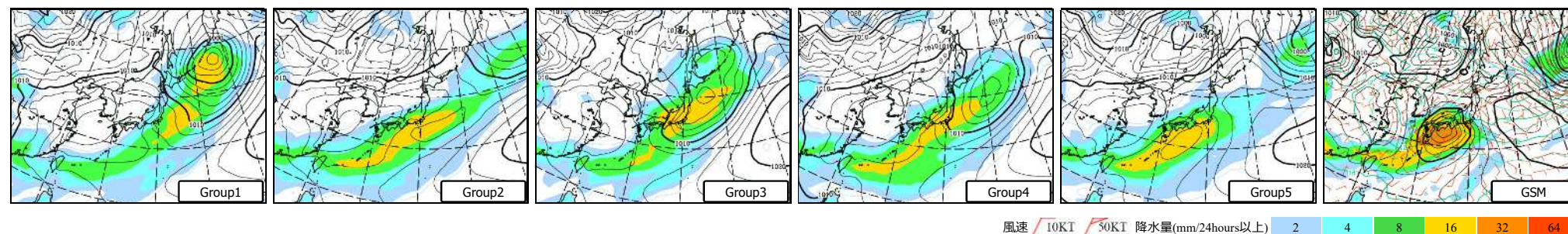


- 北日本は、雲が広がりやすく、28日から29日にかけて雨または雪の降る所がある。
- 東日本は、曇りまたは晴れの日が多いが、27日と30日は雨が降る所が多い。
- 西日本は、晴れまたは曇りの日が多いが、29日から30日にかけて雨が降る所が多い。
- 沖縄・奄美は、晴れまたは曇りの日が多いが、28日から30日にかけて雨の降る所がある。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆4月30日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料 (ENS) は、30日に日本付近に進むトラフがやや深くなり、東進が遅くなった。地上の気圧配置は、29日から30日にかけて、本州南岸付近の気圧の谷が明瞭になった。
- 28日に日本海北部にトラフが進む予想は、各モデルとも揃っている。29日以降は、初期値変わりしたモデルが多い。30日に西日本付近にトラフが進む予想は各モデルとも共通しているが、トラフの深さや進みにモデル間の差がある。
- 30日は、GSMは四国沖、ECMは伊豆諸島の東に低気圧を予想し、NCEPは日本の南に前線を予想する。ENSは、GSMやNCEPに近いメンバーは少なく、ECMに近いメンバーが多い。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考えるが、FEFE19で29日の東・西日本に広がる降水域は、各モデルの予想を参考に割り引く。